

ただ腹を空かせて君の元へ帰る

今から6年前の2016年の秋、テレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」が話題になり、同時にその主題歌「恋」も大ヒットしました。ちょうどその頃、私はこの香風高校に勤めていました。香風祭のときに、「恋」に合わせたダンス動画をつくるという放送部の企画があり、私もほんの一瞬、出演させていただきました。当時から放送部の顧問だった西山先生にはたくさんお世話になりました。西山先生、あのときはありがとうございました。ですが、今日の話はそのダンスではなく、歌の方です。

「恋」の歌詞については作者の星野源さん自身がいろいろなインタビューで話をされています。一つは「恋愛のスタイルが多様化する中で、すべての恋に当てはまるラブソングにしたい」という思い。これは、ドラマ「逃げ恥」の主題のひとつが多様な恋愛のあり方を肯定することであって、主題歌である以上、その部分と深くつながっていることは自然なことだと思います。

もう一つは「『恋』っていう曲で、生活の歌を歌おうと。働いている人、家にいる人とかの歌にしよう」という思い。歌詞をよく見れば、「君の元へ帰る」以外にも「側にいること」「泣き顔も 黙る夜も 揺れる笑顔も」といった、二人がある程度長い時間を一緒に過ごしてきたことをうかがわせるフレーズがいくつもあります。生活、すなわち暮らしがあって、その暮らしの中で、「夫婦」が、あるいは夫婦ではない「二人」が、またあるいは最後には「一人」が、「当たり前を変えながら」それぞれの日々の愛おしさに気づいていくさまが歌われています。

とりわけ、私が素敵だなと思うのが冒頭の「意味なんかないさ暮らしがあるだけ／ただ腹を空かせて君の元へ帰るんだ」という表現です。私はこれまでも「暮らし」の大切さ、具体的には「食べること」「眠ること」「働くこと」がそろっていることの大切さについて伝えてきました。星野さんはその「暮らし」に何かの「意味」があるわけではないとし、「意味」の対極として空腹という状況と君(=愛する人)という存在だけを提示しました。

私たちはともすると、なにかにつけて「何のために」と問いかけがちです。「こんなことをして何になるのか」とか、「これは何のためにあるのか」とかです。けれどもこの問いは、すべてのモノ、コトにあてはまるわけではありません。この世界には「意味」という正解があるものと、「意味」から離れたところに価値があるものがあるのです。そうしたモノやコトには、そもそもこの問いを立てること自体がそれこそ「無意味」なことになってしまいます。

その最も典型的なものが「暮らし」、すなわち「生きる」ことです。「私たちは何のために暮らしているのか、何のために生きているのか」という問いに対して、たとえば「幸せになるため」という意味づけが正解となる場面もあれば、どんな言葉も意味もあてはめなくていい場面だってあるのです。ただ、「暮らしていること」それ自体に価値があり、何の意味づけも必要のない瞬間。それが「営み(=仕事)を終え、腹を空かせて君の元へ帰る」、まさにその時であったりするのです。

「暮らし」だけではなく、「芸術」とか、「学問」とか、「愛」とか「命」とか、「何のために」というモノサシではその価値が測れないものは実はたくさんあります。どうせ当たり前を変えていくというのなら、少しでもそのものの本当の価値に近づける世界に変えたいですね。4月から始まる新しい1年でも、今まで知らなかったたくさんの新しい考えやものの見方、新しいモノやコトと出会い、自分自身をアップデートしてください。新学期にはまた笑顔で、ここ香風高校に集まりましょう。

令和5年3月23日

兵庫県立西宮香風高等学校  
校長 谷口 暢謙